

～「**両国界限・江戸歴史を巡る**」～

街路樹の銀杏の葉が日々色づく候、恒例の千葉支部秋催事を好天の下、10月21日(水)31名の参加(支部会員の3割強)を頂き、盛會に挙行了しました。

今秋の催事は、大相撲の街、そして今もなお、江戸文化が多く残る「両国界限・江戸歴史を巡る」と題して、総武線の始発駅であった両国駅に、参加者全員が集合時間前に集合しました。

両国駅(西口)目の前に高くそびえる両国国技館、やぐら太鼓を右手に、徒歩で程近い笠間藩主が築造、隅田川の水を引いた汐入回遊式庭園、明治維新後は岡山藩主(池田邸)に移り、その後は安田善次郎の所有地となり、現在は墨田区が管理している、秋色始めた「旧安田庭園」を、ゆっくり散策しました。

庭園を後に、「相撲博物館」を見学、戦後70年の節目「大相撲と戦争」展では、戦時下の遺品や写真等々に見入り、戦争の悲惨さと平和の尊さを考えさせられました。

行程は進んで、秋催事メインとなる「江戸東京博物館」の観覧です。江戸歴史&文化の体感はもとより、明治、大正、昭和に渡る東京の人々の生活や、戦時中の状況を伝える展示物を充実させて平成5年3月に開館した地下1階、地上7階の巨大な吹き抜けのある博物館です。

江戸博を背景にして集合記念写真、管内では全員が音声ガイドを手に、約1時間半の自由行動で、存分に江戸文化に触れて頂けたと思います。館内入口にある木造日本橋を渡って、江戸の街並み、江戸歌舞伎など、実物大の模型に触れることができ、江戸時代にタイムスリップをした錯覚を覚えるほどでした。

再集合のあと、明暦3年(1657)開祖の浄土宗「回向院」へ。振袖火事として知られる「明暦の大火」で10万人以上が亡くなった霊が眠っています。その昔、明和5年(1768)から境内で、勸進相撲の興業が行われ、常設の旧両国国技館が設立されました。以降76年間に渡って相撲の続いた地となった事で、境内には新弟子たちが力を授かる祈願の力塚の碑が建立されています。

全員で本堂の本尊阿弥陀如来(ご本尊)に向かって、心静かにそれぞれの願いをお参りしました。

吉良邸屋敷(2550坪)は元禄14年(1701)9月義士の討ち入ったあと没収をされ、現在は「吉良の首洗いの井戸」を中心とした跡地「本所松坂公園」が残り、昭和9年に東京都に寄付されています。

両国に数多く存在する相撲部屋の一つ、時津風相撲部屋の前を歩いてすぐの両国小学校角地に建つ、同校出身の芥川文学碑に「杜子春」の一節が刻まれています。

延べ3時間強(走行距離は約2Km)の散策&鑑賞を終えた後は、大相撲の街で食べる「ちゃんこ鍋」昼食です。両国駅前に2店舗を構える「江戸沢総本店」に到着。「ちゃんこ満腹コース」+「プレミアム飲み放題」のお値打ちメニューを前にして、白岩支部長から秋催事参加の御礼と乾杯の音頭で懇親会が始まりました。

今回高齢を押して秋催事に初めて参加して頂いた宮武さんから、この先も歴史&ハイキング愛好会で健康を維持する話から、早速の入会を拍手で迎えました。

今回の宴会イベントでは往年の歌声喫茶を模して、木頃さん、橋本さん、小澤さんに歌唱指導を頂き、青い山脈、ああ上野駅ほか、青春の思い出の歌を数々合唱して、更に支部の「絆」を深める事ができました。美味しい「ちゃんこ」の味、そして歓談にまだまだ余韻が残る中を芹川さんの中締めで幕を閉じました。

15時15分、両国駅東口で解散となりましたが、そのあと「両国駅ギャラリー」を見学された方、有志でカ、ラオケを楽しまれた方、浅草まで水上バスで遊覧された方、再度江戸博に入場された方、それぞれ今催事運営にご協力を頂き、誠にありがとうございました。次年度催事も乞うご期待をください。

以上

①集合写真（於：東京江戸博物館前）



後列左から（敬称略） 参加 31 名

- ・平木行雄・山本進一・前田芳秀・湯浅尋夫・宮地秀幸・市川 宏・宮武 亨・六角 学
- ・山田昌之・平木七重・浦上宣明・牧田賢二
- ・芹川時雄・住田勝治・芹川フサ子・佐々木悟郎・野田 佑・白岩仙一・西長義方・田代 周・藤井弘道
- ・川上 昇・猪田益彦・小澤敏宣・川島省三・川股賢三・宇田川修笹・坂本昇三郎・木頃勝紀・岩田芳秀・橋本裕一郎

②旧安田庭園



③ちゃんこ鍋江戸沢（支部長挨拶）



④吉良邸屋敷（本庄松坂公園）



⑤歌声喫茶に思い馳せ合唱（於：江戸沢）

